



李王職次官國分象太郎

勲章加授ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十年九月七日

内閣總理大臣原敬



内

閣

九月七日附施行

勲章加授

依此  
正上  
信

第三八號

十年九月七日

十年九月七日

年月日

内閣總理大臣

内閣書記官長



内閣書記官



賞勲局總裁上申

李王職次官正四位勲一等國分象太郎儀ハ  
明治十五年十二月朝鮮日本公使館醫院通辯  
出仕以來数官ニ歴任シ現ニ李王職次官トシテ  
終始朝鮮ニ在勤シ精勵職務ニ從事シ勲功

内閣

顕著ナル者ニ有之就中韓國敬言察事委任條約  
締結ニ參與シ或ハ併合ニ當リ能ク日鮮人士ノ間  
ヲ往来シテ劃策大ニ勉メ遂ニ成果ヲ收メ李王職  
ニ入りテハ其制度ヲ確立シ李王薨去王世子ノ  
御婚儀ニ就テモ亦能ク其任務ヲ盡シ其間人心動  
搖ヲ鎮撫スル等終始能ク機宜ノ處置ヲ執リ以テ  
職務ヲ全フシタル功績殊ニ顕著ニ候處病氣ニ罹リ  
目下危篤ニ陥リ候趣ニ付テハ此際特別ヲ以テ旭日  
大綬章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

病氣危篤

第三八號

十年九月七日

議可  
十年九月七日  
扶定  
年月日  
行

内閣總理大臣

内閣書記官長



内閣書記官



### 賞勲局總裁上申

李王職次官正四位勲一等國分象太郎儀ハ  
明治十五年十二月朝鮮日本公使館醫院通辯  
出仕以來數官ニ歴任シ現ニ李王職次官トシテ  
終始朝鮮ニ在勤シ精勵職務ニ從事シ勲功

内閣

頗顯著ナル者ニ有之就中韓國敬言察委任條約  
締結ニ參與シ或ハ併合ニ當リ能ク日鮮人士ノ間  
ヲ往來シテ劃策大ニ勉メ遂ニ成果ヲ収メ李王職  
ニ入りテハ其制度ヲ確立シ李王太王薨去王世子ノ  
御婚儀ニ就テモ亦能ク其任務ヲ盡シ其間人心動  
揺ヲ鎮撫スル等終始能ク機宜ノ處置ヲ執リ以テ  
職務ヲ全フシタル功績殊ニ顯著ニ候處病氣ニ罹リ  
目下危篤ニ陥リ候趣ニ付テハ此際特別ヲ以テ旭日  
大綬章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

賞勲局

勳賞部第二九二號 大正十年九月七日

大正十年九月七日 内閣書記官

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勳局總裁



李王職次官正四位勳一等國分衆太郎儀ハ  
明治十五年十月朝鮮日本公使館醫院通辦  
公仕以來數官ニ歴任シ現ニ李王職次官トシテ  
終始朝鮮ニ在勤シ精勵職務ニ従事シ  
勲功頗ル顯著ナル者ニ有之就中韓國警  
察委任降納ノ締結ニ參與シ或ハ併合ニ當  
リ能ク日韓人士間ニ往來シテ畫策大ニ

賞勳局

勉メ家ニ成果ヲ收メ李王職ニ入りテハ其ノ  
制度ヲ確立シ李王喪死去王世子ノ御覽  
儀ニ就テモ亦能ク其任務ヲ尽シ其ノ間人心  
動搖ヲ鎮撫スル等終始能ク機宜ノ處置  
ヲ執リ以テ職務ヲ全フシ先功績殊ニ顯著  
ニ候慶病氣ニ罹リ目下危篤ニ陥リ候事  
ニ付テハ此際特別ヲ以テ旭日大綬章ヲ授  
ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

九月七日

めくれず

262

急ヲ要シ  
趣ヲ電話  
ラシメ官

七 内閣書記官

内閣書記官

賞勳局總裁

賞勳局總裁



四位勲一等國分衆太郎儀ハ  
朝鮮日本公使館醫學院通辦  
歴任理ニ李王職次官トシテ  
勤シ精勵職務ニ從事  
自ナル者ニ有之就中韓國警  
備結ニ參與シ或ハ併合ニ當  
間ニ從來ニテ意策大ニ

賞勳局

シ收メ李王職ニ入りテハ其ノ  
李大王薨逝去王世子ノ御督  
ハ其任務ヲ尽シ其ノ間人心  
ハ等終始能ク機巨ノ慶置  
カシ全フシタル功績殊ニ顯著  
惟リ目下危篤ニ陥リ候趣  
別ヲ以テ旭日大綬章ヲ授  
允裁シ仰ク

九月七日

262

急ヲ要シ候ニ付大臣決裁ノ上ハ本文ノ  
趣ヲ電話ヲ以テ出張書記官ニ通告書取  
ラシメ官印ヲ以テ上奏方取計可然哉



一五二號

大正十年九月七日

宮内大臣子爵牧野伸顯



内閣總理大臣原 敬毅

進達

副大臣王職次官國分象右郎叙勲  
上奏書

宮内省

めくれず

裏面白紙

李王職次官正四位勳一等國分家太郎

右、明治十五年十二月朝鮮日本公使館  
醫院通辨申付之、爾後數官、歴任之  
現、李王職次官トシテ終始朝鮮、在勤  
之精勵職務、從事之勳功頗々顯著  
ナリ、有之就中韓國警察委任條  
約、提議、考共ニ或ハ併合、亦有り能ク  
日鮮人士ノ間ヲ往來シテ畫策大ニ勉メ  
遂ニ成果ヲ收メ李王職、入リテ其ノ制

宮内省

度ヲ確立シ李王、薨去王世子、御婚  
儀、就テモ亦能ク其ノ任務ヲ盡シ其ノ間  
人心ノ動搖ヲ鎮撫スル等終始能ク裁宜  
ノ處置ヲ執リ以テ職務ヲ全フシ其ノ功績  
殊々顯著ニ收安病室ニ罹リ目下危篤ニ  
陥リ候旨前記勳勞ヲ録シ特ニ旭日大綬  
章ヲ授ケシトシ

右證書奉不

大正十年九月七

宮内省子爵牧野伸顯



(十六)

めくれず

李王職次官正四位上兼一等國分家太郎

明治十五年十二月朝鮮日本公使館

院通辨申付之爾後數官、歷任之

李王職次官トシテ終始朝鮮ニ在勤

相勵職務ニ從事シ勲功頗々顯著

有之就中韓國警察局長任條

提結ニ考共シ或ハ併合、有リ能ク

群一人士ノ間ニ往來シテ畫策大ニ勉メ

成果ヲ收メ李王職、入リテ其、制

宮内省

確立シ李王王ノ薨去王世子ノ御臨

就テモ亦能ク其ノ任務ヲ盡シ其ノ間

動搖ヲ鎮撫スル等終始能ク裁宜

取置テ執リ以テ職務ヲ全フシ功績

顯著ニ收妻病棄テ罹リ目下危篤ニ

候ニ前記勲勞ヲ録シ特ニ旭日大綬

ヲ授ケシトシ

源ヲ奉ス

大正十年九月七日

宮内省子爵牧野伸顯



(十六)

264

送三法之酒也